

フォレストアドベンチャー！

林業の衰退により荒廃した森林を有効活用しようと、アウトドアレジャー施設「フォレストアドベンチャー・フジ」が7日、富士北麓の県有林（鳴沢村）にオープンした。樹上に張り巡らされたつり橋や丸太渡りなどの「アクティビティ（関門）」に挑戦しながら、木から木へと移動するフランス発祥のアウトドアレジャー。同施設はアジアで第1号の施設となる。収益の一部は周辺県有林の整備に利用される。

同施設は、事業主体の勝山耕地整理組合（富士河口湖町勝山、小林禮司組合長）が34年に県から賃借した約15畝の森林内に開設された。標高約1

アジア第1号の仏発祥レジャー施設

鳴沢村で樹上のつり橋、丸太渡り



100畝の高地にあり、桑園やカラマツなどの植林地として利用してきたが、養蚕や林業の衰退で森林は約50年前から荒れるに任せて放置された。森林の有効利用と再生を求めている同組合と、日本での同レジャー施設建設地を探していたNPO法人「フォレストアドベンチャー」（同町船津、田桑正樹代表）との意見が一致。6月1日に同組合が県と用途変更の契約を結び、賃借している森林内に、約1畝の施設を建設した。運営は同NPOが行う。

樹上2514畝の高さに設けられた全長約800mのコースで、特製の安全具を着用して楽しむ。ネットや揺れるつり橋、最大12・5畝の高さから最長90畝の長さのワイヤを特製安全具に取り付けられた滑車で滑り降りるなど41のアクティビティがあり、すべてをクリアするには約2時間かかる。

利用料金は高校生以上3500円、中学生以下はコースにより2000円と2500円。問い合わせはフォレストアドベンチャー（☎0555・72・0970）。

【藤野基文】

木から木に渡されたつり橋のアクティビティに挑戦する子供たち